

令和7年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

指導	管理作業の省力化及び大玉生産が可能なブルーベリーの交互結実剪定法
【要約】ブルーベリーの交互結実剪定法により、10aあたりの作業時間は慣行比60%となり、管理作業が省力化する。また、収量は減少するものの大玉果の割合が増加する。	

1 背景とねらい

本県におけるブルーベリーは、夏季の収入源として果樹経営の安定化に重要な品目に位置付けられている。しかし、近年は生産者の高齢化や後継者不足などにより栽培面積は急激に減少している。本県ブルーベリーの生産量を維持するためには、省力的な栽培技術の開発及び普及が急務である。

また、ブルーベリーにおける年間の労働時間に占める剪定の割合は、収穫・調整作業に次いで大きいことから、剪定作業の省力化は重要な課題である。

そこで、本研究では誰でも導入可能なブルーベリーの簡易剪定技術（以下「交互結実剪定」という。）の確立を目的に、果実生産や作業時間に与える影響について明らかにする。

【平成31年度要望 ブルーベリーの簡易な剪定方法による果実肥大効果の検証（二戸農業改良普及センター）】

2 内容

- (1) 交互結実剪定は、着果させる主軸枝（着果枝）と、着果させず翌年の良質な結果枝を養成させる主軸枝（養成枝）を、交互に配置させる剪定法である（図1）。
- (2) 本剪定は切除の対象となる枝が明確であり、機械的に剪定を実施できるため、10aあたりの剪定時間は慣行比71%になり、収穫を含めた管理作業時間を削減できる（表1）。
- (3) 本剪定は切除する結果枝が多いため、収量は慣行比55%になるが、販売に有利で高単価が期待できる大玉果割合が増加する（表2）。
- (4) 収穫果実1kgあたりの剪定時間は慣行比56%となることから、作業全体の労働生産性が向上する（表1、2）。

3 活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等 県内全域 農業普及員、JA営農指導員
- (2) 期待する活用効果 交互結実剪定の実践により、管理作業時間の削減及び大玉生産が可能となり、規模拡大が図られる。

4 留意事項

- (1) 本成果は、「チャンドラー」を供試品種とした内容である。収量の大きな年次差は見られなかったが、他品種で交互結実剪定を実施した場合は、収量や果実肥大への影響が異なる可能性がある。
- (2) 本剪定は、大玉品種や新梢が発生しやすい品種などが適すると考えられるが、他品種への適応性は今後検討予定である。

5 その他

- (1) 関連する試験研究課題
(R3-8)ブルーベリーにおける省力的な簡易剪定技術の確立[R3~R7/県単]
- (2) 参考資料及び文献等
 - ア 横田清ほか. 1995. ハイブッシュブルーベリーの果粒肥大に及ぼす着花調整の効果. 園学雑 64 別 2
 - イ 岩垣駿夫ほか. 1984. ブルーベリーの栽培. 誠文堂新光社
 - ウ 遊佐公哉ほか. 2024. ブルーベリーにおける交互結実剪定法が果実生産及び作業時間に及ぼす影響. 園芸学会東北支部令和6年度大会要旨 35-36

6 試験成績の概要（具体的なデータ）

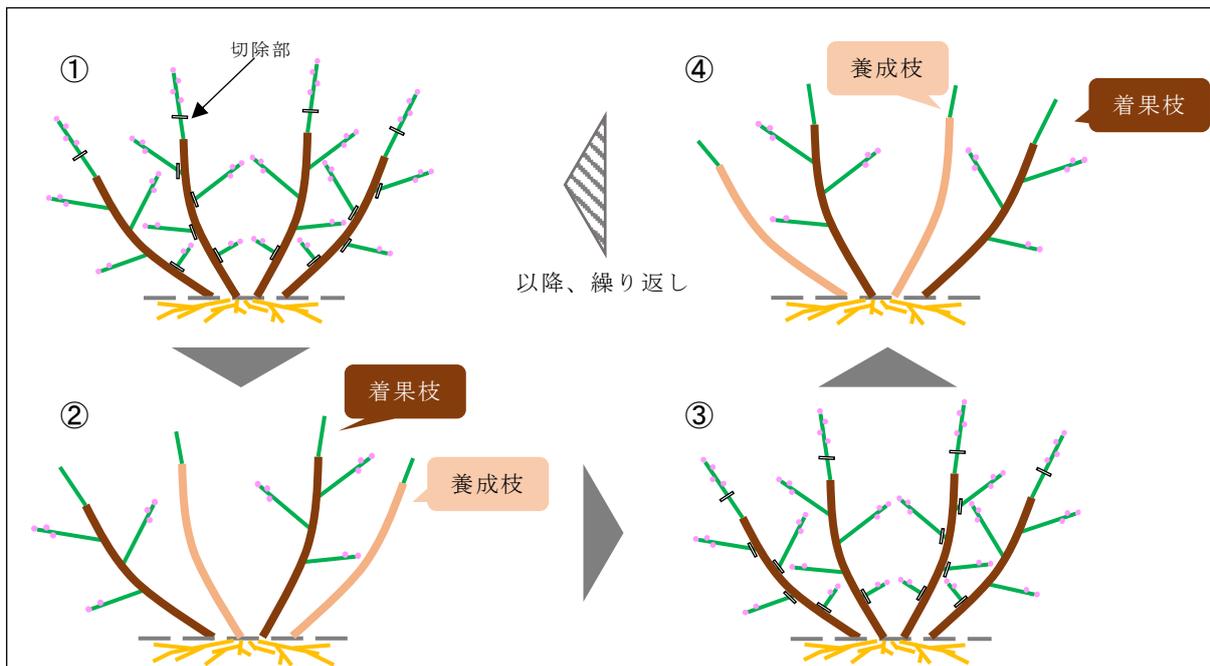


図1 交互結実剪定の方法

【図1 摘要】

- ①→②：着果枝では弱い枝や樹冠内部の枝を間引き、養成枝では主軸枝から発生している結果母枝及び結果枝を全て切除する。主軸枝先端は葉芽で切り返し、樹冠拡大を図る。
- ②→③：着果枝では果実を収穫し、養成枝では翌年に収穫するため良質な新梢を養成する。
- ③→④：②で着果枝であった主軸枝は養成枝に、養成枝であった主軸枝は着果枝になるよう剪定を行う。
- ④→①：以降、同様に剪定を繰り返す。

表1 交互結実剪定法が作業時間に及ぼす影響（R1～R7平均）

品種	試験区	作業時間(hr/10a)				果実1kgあたりの作業時間(分:秒)							
		剪定	収穫	計		剪定	収穫	計					
チャンドラー	慣行剪定	34	-	127	-	161	-	05:39	-	10:32	-	16:11	-
	交互結実剪定	24 (71%)	73 (57%)	97 (60%)		03:11 (56%)	10:46 (102%)	13:57 (86%)					

※植栽本数333樹/10aで試算

※()内の数値は、慣行剪定を100とした割合

表2 交互結実剪定法が収量及び果実の大きさに及ぼす影響（R1～R7平均）

品種	試験区	1樹あたり	10aあたり	果実の大きさ(%)					
		収量(kg)	収量(kg)	18mm未満	18～20mm	20～22mm	22～24mm	24mm以上	
チャンドラー	慣行剪定	2.8	935	-	10.3	29.8	34.1	17.0	8.7
	交互結実剪定	1.5	510 (55%)		7.4	26.3	33.8	20.5	12.0

※植栽本数333樹/10aで試算

※()内の数値は、慣行剪定を100とした割合

【耕種概要】

試験場所：軽米町晴山ブルーベリーほ場、品種：チャンドラー、樹齢：22年生（R7.4時点）、試験樹数：各5樹、試験期間：R1～R7

【試験概要】

慣行剪定は岩手県果樹指導要項に準じて実施し、交互結実剪定は図1摘要に記載のとおり実施。養成枝及び着果枝の本数は、1樹あたりそれぞれ6本、計12本とした。

【担当】 ○園芸技術研究部 果樹研究室、県北農業研究所 果樹・野菜研究室